

藤原八束朝臣の月の歌一首

九八七番

待ちかてに 我がする月は 妹が着る 三笠の山  
に 隠りてありけり

市原王、宴にして父安貴王を禱く歌一

首

九八八番

春草は 後はうつろふ 巖なす 常磐にいませ  
尊き我が君

湯原王の打酒の歌一首

九八九番

焼大刀の かど打ち放ち ますらをの 寿く豊御酒  
に 我酔ひにけり